

報道関係者各位

プレスリリース

プレスリリース

2017年9月6日

インフォコーパス、日本ヒューレット・パッカーードと共同で「エッジ・クラウド連携」機能検証を実施

～中小製造業を含むさまざまな産業へのエッジコンピューティングの普及を加速～

株式会社インフォコーパス（代表取締役 CEO：鈴木潤一、本社：東京都目黒区、以下インフォコーパス）は、日本ヒューレット・パッカーード株式会社（代表取締役 社長執行役員：吉田仁志、本社：東京都江東区、以下日本ヒューレット・パッカーード）の協力のもと、IoTプラットフォーム SensorCorpus（センサーコーパス）（以下 SensorCorpus）と IoT ゲートウェイ製品 HPE Edgeline シリーズ（以下 HPE Edgeline）を使ったエッジコンピューティング(*1)の実効性および有効性について、2017年6月から7月にかけて検証・評価を実施いたしました。これにより、中小製造業を含むさまざまな産業へのエッジコンピューティングの導入の推進を図ってまいります。

【検証の背景】

スマートフォンを初めスマートデバイスの爆発的な普及に加え、またあらゆる身の回りのものにセンサーが組み込まれつつあります。2032年にはそのセンサー数は50兆個を超え、多くのセンサーから収集される超大容量のデータを効率的に処理する仕組みとしてエッジコンピューティングが注目されています。

SensorCorpus はエッジコンピューティングを実現する「エッジ・クラウド連携(*2)」機能を世界で初めて実装しており、今回の検証ではその実効性および有効性を評価することを目的として、日本ヒューレット・パッカーードの検証環境に SensorCorpus を実装して検証を行いました。

【検証の概要】

検証期間： 2017年6月22日（木）～7月16日（日）

検証場所： 日本ヒューレッド・パッカード株式会社
 （東京都江東区大島2丁目2番1号）

検証機材：

➤ クラウド側： C7000（BL460）

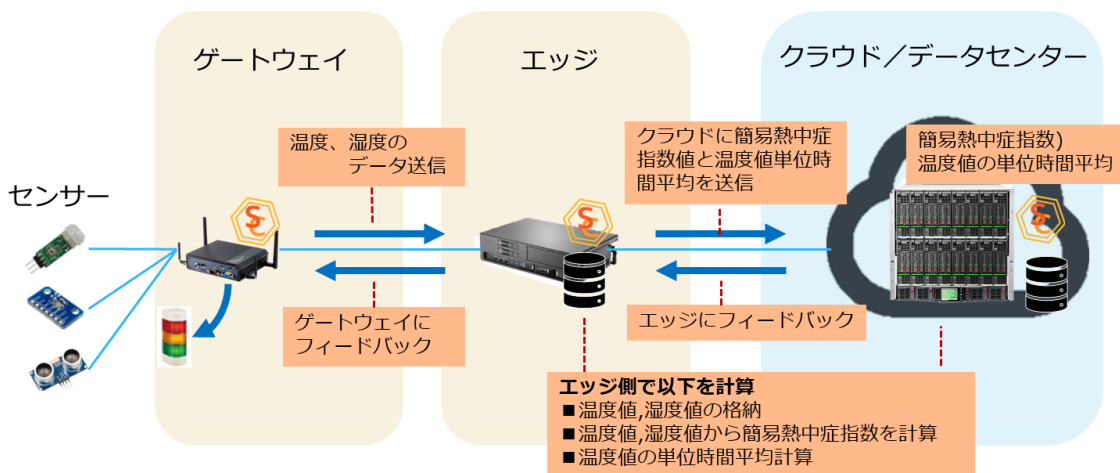
➤ エッジ側： EL1000

➤ ゲートウェイ： EL20

検証シナリオ：

- ① 取得した温度、湿度のデータをゲートウェイからエッジ側に送信
- ② エッジ側でSDSP(*3)による以下の計算を実施。
 - 温度値、湿度値の格納
 - 温度値、湿度値 から簡易計算による熱中症指数の算出
 - 温度値の単位時間平均計算
- ③ クラウド側に簡易熱中症指数値と温度値の単位時間平均を送信
- ④ クラウド側の閾値判定に基づき閾値を場合の結果をエッジ側にフィードバック
- ⑤ エッジ側よりゲートウェイ側に閾値判定の結果をフィードバック

「エッジ・クラウド連携」機能の検証概要図


【検証の結果および今後の展開】

検証の結果、クラウドやデータセンター側のリソースに課題をもつ企業や速度・品質・コストなどネットワーク面で拠点に課題をもつ企業にとって、これらの課題を解決する手

法としてエッジコンピューティングが有効であることを確認するとともに、SensorCorpus が提供する「エッジ・クラウド連携」機能が HPE Edgeline シリーズ上で問題なく稼働することを確認いたしました。

インフォコーパスは、今後国内外の多拠点に工場をもつ企業やグローバル展開を目指す企業を中心に、SensorCorpus の「エッジ・クラウド連携」機能を活用した提案を積極的に進めてまいります。

尚、2017 年 9 月 28 日に大阪で開催される「デジタル・トランスフォーメーション時代 IoT を活用して製造業の未来を変える！！」セミナーにて、本検証の詳細をご説明いたします。詳細は <http://www.infor.jp/events/20170928> をご参照ください。

今回の発表に際し、各社から以下のエンドースメントをいただいております。

■日本ヒューレット・パカード様からのエンドースメント

株式会社インフォコーパス（以下インフォコーパス）の「エッジ・クラウド連携」機能検証の発表を歓迎いたします。IoT への注目が高まる一方で、実装すべき IT アーキテクチャはまだ十分に確立されていないのが現状かと思われまます。今回のような取り組みを通じて、インフォコーパスが IoT 普及の実現を大きく推進されることをますます期待しております。

日本ヒューレット・パカード株式会社

エンタープライズグループ

データセンター・ハイブリッドクラウド製品統括本部

統括本部長 本田 昌和

■古河インフォメーション・テクノロジー様からのエンドースメント

古河インフォメーション・テクノロジー株式会社は、株式会社インフォコーパス（以下インフォコーパス）の「エッジ・クラウド連携」機能検証の発表を歓迎いたします。IoT への注目が高まる一方で、どのような思想に基づいてインフラを設計すべきかの議論がまだ十分になされていないのが現状かと思われまます。これらの取り組みを通じて、インフォコーパスが IoT 普及の実現を大きく推進されることをますます期待しております。

古河インフォメーション・テクノロジー株式会社

産業システム事業部 事業部長 執行役員 山本 陽一

■NTT スマートトレード様からのエンドースメント

NTT スマートトレード株式会社は、株式会社インフォコーパス（以下インフォコーパス）の「エッジ・クラウド連携」機能検証の発表を歓迎いたします。

昨今の IoT 評価キットが数多く出回る中で、どのクラウド・エッジ・ゲートウェイ・センサー各ノードにおいてどのようにデータを収集・集計を行うか、どのタイミングで分析・評価・アラートを配信するか、IoT デバイスの負荷軽減と、冗長性による IoT の霧としての信頼性の向上など、課題は多岐に渡ると思われます。こういった課題の解決に今回のエッジ・クラウド連携が大いに寄与することと期待しております。

NTT スマートトレード株式会社
代表取締役社長 中澤 豊

■IIJ グローバルソリューションズ様からのエンドースメント

株式会社 IIJ グローバルソリューションズ（以下 IIJ グローバル）は、株式会社インフォコーパス（以下インフォコーパス）の「エッジ・クラウド連携」機能検証の発表を歓迎いたします。IIJ グローバルでは、自社 IoT システムインフラ「CaaS」の中に SensorCorpus および HPE Edgeline をコンポーネント化し、MVNO として実績豊富な「IIJ モバイル M2M アクセスサービス」と組み合わせたワンストップ・ソリューションとして提供することを計画しています。IoT への注目が高まる一方で、どのような思想に基づいてインフラを設計すべきかの議論が市場ではまだ十分ではないなか、インフォコーパスが今回の取り組みを通じて IoT の普及を推進されることを期待しております。

※CaaS(Component as a Solution) : <https://www.iijglobal.co.jp/service/caas/>

株式会社 IIJ グローバルソリューションズ
代表取締役社長 岩澤 利典

(*1) エッジコンピューティング

ユーザーに近いネットワークの末端側（エッジ）に位置する端末でコンピュータ処理を行うこと。クラウド側にデータを上げる前にエッジ側で処理を行うことで、クラウド側で処理負荷の軽減、エッジ側からクラウド側にデータを上げる際のネットワーク負荷の軽減、などの効果が期待されている。

(*2) エッジ・クラウド連携

クラウド側とエッジ側でデータ処理や制御処理の協調分散処理を実現する SensorCorpus

が世界初で実装した機能

(*3) SDSP

センサーデータ・ストリームプロセッシング (Sensor Data Stream Processing) の略。多種類のセンサーデータを統合・集約・演算を行い一つのセンサーデータを分流するなどして、仮想的なセンサーデータを生成することで、より理解しやすい指数の生成や異常値の判定、特定条件下の判断等をリアルタイムで行うことができる、SensorCorpus の機能。

以上